

谷口圭三が目ざす 我が津山の街づくり

2つの目標

- 1 誰もが輝く拠点都市をつくる
拠点都市とは、
満足度の高い都市基盤・都市機能が揃っていること
- 2 基礎自治体として住民の快適な生活圏を形成する
快適な生活圏とは、
きめ細かな支援が行き届いていること

津山新八策の1 拠点都市にふさわしい都市機能が整備された津山へ

1 津山まちじゅう博物館構想

● 構想及びアクションプランを策定

まち全体を「屋根のない博物館」に見立て、地域資源を活かした地域ブランディングに取り組み、その魅力を市内外に発信する事業。構想とアクションプランを策定し、コンソーシアム(共同事業体)を立ち上げて始動。

● 津山城・城下町泊プロジェクト

コンセッション(公設民営)方式採用の3例目。市内に点在する歴史的文化財(鶴山館、迎賓館、余芳閣、旧梶村家住宅)を改修し、価値を高めて分散型ホテル等に活用することで、賑わい創出及び歴史的資源保存も。(改修工事完了後R8.11オープン目標)



津山城



旧津山扇形機関車庫



衆楽園

● 津山まちじゅう体験博を実施

歴史・食・自然など、津山市の特徴的な観光資源から体験プログラムを造成、実施。情報発信力を強化し、観光客の増加、周遊促進、滞在期間の延長を目指して地域活性化を。



津山まちじゅう博物館

2 津山市スマートシティ構想

● 便利で快適な技術や仕組みをいち早く生活に —— 7つの分野について取組中 ——

- (1)産業、観光／文化
- (2)交通
- (3)行政
- (4)教育
- (5)健康寿命
- (6)環境／エネルギー
- (7)IT基盤

について、各分野の目指す姿を明示。「住み続けたい」と感じられる便利で快適な津山の実現へ。

ほしい情報が
もっと簡単に!

健康管理が
もっと手軽に!

窓口手続が
もっと便利に!

デジタル
田園都市
国家構想
推進交付金で
導入

● 便利になったと感じられるアプリや仕組みを提供

- 母子健康手帳アプリの利用率94.6%以上
- アプリを利用したデジタル予診票の利用率53.7%に到達
市内11医療機関で利用可能(R6年度末)
- お悔み窓口の来庁予約システムの利用率は8割超
- 食事管理アプリ、健康増進アプリの導入で
食事と運動や生活習慣の両面から健康寿命の延伸をサポート
- 「AIデマンドバス」「シェアサイクル」
「AIチャットボット」「ごみ分別アプリ」
「デジタルライブラリー(電子書籍貸出サービス)」
「AIドリル(小中学校)」
「電子申請」「来庁予約」など様々なアプリや仕組みを提供



● 総合窓口システムや遠隔相談システムの導入

- 市役所窓口での手続き時間が短くなる仕組みを導入
- 本庁に行かなくても済む仕組みを導入

3 中心市街地活性化

● 基本計画の策定

R7年度中の国による計画認定を目指して内閣府と調整中。また、中心市街地活性化協議会からの提言、及びR4年策定の「津山城下まちづくりビジョン」を踏まえ、20年後の目指すべき中心市街地の将来像を示すための進化版として「津山市中心市街地活性化に向けたまちづくりビジョン」を策定予定。

● まちづくりの推進に関する基本協定

独立行政法人 都市再生機構(UR都市機構)西日本支社と「まちづくりの推進に関する基本協定」を締結(R2.12)。「暮らし続けたい 活力と魅力あふれるまち つやま」の実現に向け、中心市街地のまちづくりや城下スクエアと森本慶三記念館の民間事業者を活用した一体利活用などについて連携して取り組む。

● アルネ・津山の機能拡充

サテライトオフィスやコワーキングスペースを備えた「COTOYADO」を整備しワーケーション事業等を展開(R4)。リスクリングセンターの設置(R7)や親子で遊べる場を設置し、賑わいと人の流れを生み出す取組を実施。



国際ホテル跡地と森本慶三記念館との一体的利活用を検討

社会実験の
イベントを開催し
広場としての
可能性を検証

● 「津山の顔」となるエリアの 景観整備

中心市街地における支援メニューを充実し、民間投資を促進

- 鶴山通りの空き店舗リニューアル
- 商店街への出店支援